

東京 IPO 特別コラム

2017年6月26日 Vol.83

花菖蒲の季節にホットマネーが踊る

日経平均がようやく安定的に2万円台に乗せるとともに、ホットマネーがIPO市場にも押し寄せてきたようです。あまりにホット過ぎて火傷してしまいそうな勢いで6月にデビューした3銘柄は公開価格に対して初値が大きく上回っていますが、その後はやや波乱含みの展開が見られます。5月はIPO銘柄がなく6月後半に集中したため行き場のないお金が集まり、好需給のIPO銘柄の株価がやや過剰に買われたためだと考えられます。

ビーブレイクシステムズ(3986)は6月15日にマザーズに上場した主にクラウドERPの開発および販売を行うパッケージ事業を展開する企業ですが公開価格1670円に対して初値は7700円で4.6倍にも跳ね上がりました。その後8300円の高値をつけましたが、先週末は早くも調整の動きを見せ、6320円の安値まであって引けは6450円。今期予想経常利益2億円足らずの企業がいきなり時価総額100億円を超えてやや過熱気味のスタートであったことから、調整は致し方ないところではありますが、市場環境に支えられ短期的な活発な値動きが今後も想定されます。

ディーエムソリューションズ(6549)は6月20日にJASDAQに上場したダイレクトメールの会社で上場2日目に公開価格2500円に対して2.8倍の7100円で初値がつきました。22日に8500円の高値をつけましたが、これも業態からしてやや過剰な評価だったせいで3日目となる先週末は6800円の安値をつけ、終値は7000円となり、初値を割り込むなど波乱含み。6月21日札幌アンビシャスに上場したエコモット(3987・札幌アンビシャス)も公開価格2730円に対して1.5倍余りで4195円の初値がつきました。こちらは23日に6400円の高値で寄り付くなど順調な上昇を見せるかと思われましたが週末は一気に5020円の安値つけるなど波乱含みの展開。アンビシャス銘柄だけに公開時の人気が続かない可能性が大で投資するとしても短期勝負と割り切った資金が入ってきたように思われます。

今週は27日にFringe81(6550・M・公開価格2600円、時価総額62.5億円)、30日にはSYSホールディングス(3988・JQ・公開価格2560円・時価総額31.8億円)、ツナグ・ソリューションズ(6551・公開価格2130円・時価総額49.8億円)、GameWith(6552・公開価格1920円・時価総額158.4億円)の合計4銘柄がIPOの予定です。30日の3銘柄一気のIPOでそれぞれ比較的安く寄り付く可能性もありますので注目しておきたいと思いません。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)